

◆私のカンボジア支援（2001年からカンボジアで支援開始、住田代表理事の回顧録）

—その9—「うれしい！ 朝ごはんがたべられる—！」 2005年

WFPの支援決定。朝給食開始！
幸せいっぱいの子どもの顔・顔・顔！笑顔で見つめる長老たち！

2005年10月、待ちに待った朝給食が、ポーサット州の小学校17校で始まりました。さっそく校舎での給食実施風景を見学に行きました。

給食開始当日、300人の子どもたちは、わくわくして朝暗いうちからお皿とスプーンを持って学校に集まりました。朝からご飯が食べられるのです。

沢山の親が給食を見に学校に集まりました。勿論、長老たちも見に来ていました。ご飯の炊事係のおばさんは、朝4時に学校に来て準備したそうです。校内はまだ暗いのでバッテリー用の電球を支援団体で用意しました。



WFPから支給された食料

朝6時、集まった子どもたちが見守る中、大きなお釜の蓋を取ると、プーンと炊き上がったご飯の良い匂いが漂い、子どもたちの食欲をそそります。

鰯の油漬けを井戸水で沸かしたスープもあります。先生も協力してご飯にスープを少量かけて配りました。

お皿のご飯からは湯気が立っています。子どもたちは思い思いの場所に座ってご飯を食べ始めました。

うれしそうに顔・顔・顔、満面の笑みがこぼれます。幸せいっぱいの顔・顔・顔。

長老たちも満足そうに笑顔で子どもたちを見守っています。見学に来た親たちも食べたような顔をしています。



WFPのトーマス所長(左)と住田(中)とカニタ担当職員(右)



朝4時から給食をつくる調理人



嬉しそうに並ぶ子どもたち



嬉しそうに並ぶ子どもたち

1人100gのお米に10gの鰯の油漬け、塩3g、油7gのWFPからの食材支給でやっと始まった朝給食です。「WFPの所長さん、実現に尽力してくれた担当のカニタさん、ありがとう！この子供たちの顔を見てください。良いことをしてくれました。」と心の中で感謝する私。

WFPの支援が活かしていることを実感しました。満腹した子どもたちは、バケツに用意された井戸水でお皿を洗い、教室で静かに授業の始まりを待っています。

子どもたちの顔には元気がみなぎっています。子どもたちの顔を見ながら、私の小学校入学時のころ、アメリカのNGOの援助で始まった、脱脂粉乳だけの給食のことを思い出しました。小さな空き缶1杯、脱脂粉乳を沸かしただけの給食でしたが「甘くて美味しかった」記憶が、今も残っています。

終了後、長老たちが集まって「有難う、有難う！子どもたちに勉強をしっかりとやるように話します。」「子どもたちは全員学校に来るでしょう。」「子どもたちは、この幸せを一生忘れないと思います。」と口々にお礼を言ってくれました。私も嬉しさと満足感でいっぱいでした。

朝給食が始まって半年が過ぎたころ、問題が次々と出てきました。(続く)

◇ご支援をお願いいたします。

教育環境を整え、貧しい子に教育の機会を提供し、先生に指導力の向上のお手伝いをしています。SSFCの活動へのご支援をお願いいたします。寄附金のお振込みは、右記からお願いいたします。

■三菱UFJ銀行 神保町支店
口座番号(普) 0968555
■ゆうちょ銀行 00110-2-767497
口座名: 公益社団法人 SSFカンボジア

詳しい解説・近況報告はSSFCホームページに掲載(ホームページ: <http://www.ssf.or.jp/>)しております。ぜひご覧ください。右のQRコードからもアクセスできます。お問い合わせは、TEL: 03-6272-5717 FAX: 03-3511-5019 E-mail: info@ssf.or.jp



※活動内容の報告(バックナンバー)はホームページ「よにゆむ通信」にも掲載されますので、ぜひご覧ください。



ញឹម によにゆむは、カンボジア語で「笑顔」という意味です。

によにゆむ通信

2019年9月号 No.21

公益社団法人
Sumita Scholarship Foundation, Cambodia
(SSFC) 代表理事 住田平吉
〒101-0051
東京都千代田区神田神保町2-44
第二石坂ビル502
TEL: 03-6272-5717 FAX: 03-3511-5019
E-mail: info@ssf.or.jp
ホームページ: <http://www.ssf.or.jp/>

◆次期研究協力予定校「ウェス・サボーン小学校」の紹介

カンボジア教育省の学校環境優秀校4校の1つに選ばれた学校です。



住田代表理事・小林監事・スフォン校長

先生と支援者一行で記念写真

■指導力と実行力のあるスン・スフォン校長(女性・46才)

バコン郡(シェムリアップ州)のダン・ビッ・チカ教育長から「SSFCに支援をお願いしたい学校がある。先生は若くてやる気がある。校長は実行力のある女性だ。ぜひ学校を見に来てくれ」と言われました。

2019年6月11日午後、支援者一行と共にウェス・サボーン小学校に伺いました。

まず驚いたのは、校内の綺麗さでした。ゴミ一つ落ちていません。古いトタン屋根の教室もありますが、机にいたずら書きもなく、先生自作の掛け図がたくさん貼ってありました。給食調理室も整理整頓が良く綺麗で、衛生管理が行き届いていました。校庭には何か所も畑が作られていて、どの畑も草一本生えてなく、よく手入れされていました。校内を見学した後、職員室で集まった先生たちとも話し合いました。その職員室も会議机が整えられ埃もなくきれいに掃除がされていました。括りつけの本棚には、書類が整理されていました。

開口一番、校長に「屋根と壁がトタンの校舎を建て直して欲しい」と頼まれました。

私は「SSFCは校舎を建てることを目的とした団体ではありません」と説明しました。そして「今、カンボジアで一番必要なのは、先生の指導力の向上とSSFCは考えています。」

すかさず、一番年長の32才の女の先生が、「私たちも生徒に分かる授業を心掛けていますが、師範学校でも習っていないし、今教えてくれる人もいません。校長を中心にして自分たちで考えて授業しています。ぜひSSFCに教えていただきたいです。」と要請を受けました。

今日は急な訪問でしたので、次回10月の訪問を約束し、全員の先生が集まってくれるように頼みました。



トタンの教室に貼られた沢山の自作掲示物



きれいに整頓された教員室

ホームページ: <http://www.ssf.or.jp/>

◆「ウェス・サボン小学校」を直近の写真で紹介します。

■教室と校庭、衛生管理の行き届いた調理場・トイレ・・・ゴミ1つ落ちていない綺麗な学校を目指しました。

これだけの設備を整えるお金をどのようにして集めたのか、校長に聞きました。
初めは木の校舎3教室と先生3人の学校でした。トイレも2室お寺が造ってくれました。私は先生と生徒に掃除の仕方教えて、ゴミが落ちていない教室と校庭、トイレの水槽に水を毎日入れること、使用後は水で流すこと、たわしできれいに洗う事も実際にやって見せて教えました。
朝給食が始まった時も、調理場はヤシの葉で、竈は石を置いただけのもので始めました。まず実行することでした。調理のおばさんに、鍋釜を綺麗に洗うことや、竈やまきの後片付けを教えました。「そんな面倒な事は出来ない！」と辞めてしまう人も居ました。私と先生たちで給食を作ったこともありました。その当時から空芯菜は生徒が栽培していますということでした。



ウェス・サボン小学校校門

■清潔な給食調理場と衛生意識

給食は、WFPの支援で実施していました。調理場も設備が良く管理がきちんと行われ、掃除も綺麗にされていました。更に驚いたことは衛生管理も徹底していることでした。
給食を食べた生徒のお皿は、洗った後、干して日光消毒がされていました。カンボジアの学校では、今までに見たこともありません。手洗いの施設も完備して維持管理もきちんと出来ていました。トイレの掃除も綺麗にされていました。水はポンプで地下水を汲み上げていました。(日本の団体が寄附)



ゴミ1つ落ちていない校庭



整理整頓された給食調理場



日光消毒している給食のお皿



カナダ在住カンボジア人が、鉄筋校舎5教室を建ててくれました。

◆「ウェス・サボン小学校」を直近の写真で紹介します。

校長の話「綺麗な学校と私たちの努力を見てもらいました。私も頻りに郡教育局に行き学校の様子や要望を話しました。州も郡教育局もお金が無く要望はかかないませんでした。支援団体を紹介してくれるようになりました。僅かですがお寺も村人も寄附をしてくれるようになりました。」

■校庭に畑をつくって

校長の話「給食のおかずはスープだけです。1人10gの油漬けの鰯だけでは足りないので校庭の畑で空芯菜を栽培しています。米もしっかり育てています。また火傷や胃の薬になるとアロエも育てています。」



空芯菜の畑



米も栽培しています。



瓶で育てているアロエ



手洗い場



トイレ



トイレの案内板



地下水を汲み上げて使っています



綺麗に維持されている教室